

国産材利用を促進 マーク創設1周年シンポ

日本プロジェクト産業協議会（JAPIC）森林再生事業化委員会・国産材マーク推進会（米田雅子会長）は8日、「国産材の利用拡大をめざして」と題する国産材マーク設立1周年記念シンポジウムを東京都江東区の木材会館で開いた。

製材・合板・丸太などの木材製品に国産材であることを示す「国産材マーク」を付けて、国産材の利用促進を進めようと昨年8月創設した。マークの創設と同時に推進会も発足、これまでに75社がマークを取得し、製品に付けているという。

シンポジウムでは秋田プライウッドなどの木材製品の製造関係者と、飛鳥建設など国産木材製品の活用を進める企業が取り組みを紹介した。飛鳥建設は丸太打設液状化対策&カーボンストック（LP-LiC）の実証工事における国産材マークの掲示の状況を説明した。

また、和田章東工大名誉教授、島田泰助全国木材組合連合会副会長、牧元幸司林野庁林政部長、高島正之



横浜埠頭社長をパネリストにディスカッションも行われた一写真。和田名誉教授は「木は鉄と強さは同じだが、重さは6分の1であり、もっと活用しなければならない」とした上で、欧州の事例に触れながら「木は新しいコンクリート、だというキャッチフレーズを欧州では使っている。日本は地震国だから、欧州のやり方をそのまま使うということは難しいとしても、年間1億立方メートルの木が育っているわけで、それを上手に使わない手はない」と指摘した。

牧元部長も「木を使うことが森を守ることにつながる」と呼び掛けた。